

青少年祖師谷地区委員会だより

令和3年3月

発行 青少年祖師谷地区委員会 広報担当

事務局 祖師谷まちづくりセンター ☎ 3482-2201

青少年祖師谷地区委員会
会長 川添 雅子

本年度から会長を引き継ぎ、サポート制度も整って新体制でのスタートを切りました。地域の皆様のご協力のもと、より良い活動をしていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染防止に追われる日常は、当たり前に行われていた数々の行事や学びの場が脅かされた一年でした。保護者の皆様や先生方のご苦勞は計り知れません。地域として学校や児童館とともに子どもたちに寄り添い活動してきましたが、何をやる機会もないままに年度末を迎えることになりました。

直接交流する機会がなくとも、私たちが生活の中で外出回数を減らして密を避け、キチンとマスクをして生活することは事態の終息につながることも子どもたちの手本になれるのではないかと思います。

これからも地域の皆様と、子どもたちの安全・安心を守るべく見守りを続けていくとともに、1日も早くコロナ後の新たな日常をおくれるようになることを願います。

令和2年度青少年祖師谷地区委員会の活動

- 6月 祖師谷児童館子どもフェスティバル（助成・協力事業）※中止
- 塚戸小学校サバイバルキャンプ（共催事業・学校協議会）※中止
- 7月 そしがや夏まつり（参加事業）※中止
- 子ども施設見学会（主催事業）※中止
- 10月 祖師谷ふるさとフェスティバル（参加事業・児童館）※中止
- 12月 不審者対策看板の作成（主催事業）
- 2月 学校関係者との意見交換会（主催事業）※中止
- 3月 海辺のバスハイキング（共催事業・児童館）※中止
- 研修会
- ※ 地区委員会全体会（5回） 実行委員会（1回）
- ※ 広報紙発行



一年を振り返って ～コロナ禍の教育活動

祖師谷小学校 校長 篠原 和也

今年度は、子どもたちに十分な学びの場をつくってあげられたでしょうか。

そのことを考えると心苦しくなります。しかしながら、教職員と知恵を出し合い、できる限りのことは行ってきたつもりです。

運動会は内容を大幅に削減し、練習時間を短縮して午前中開催をしました。練習は各クラスごと、お互い顔が見えない中での活動に戸惑いもありましたが、当日は、学年全体で演技すること、全校児童が一堂に会して校庭に集まることで、一体感を味わうことができました。また、学芸会も実施が難しい状況で、内容を学習発表会として、日頃学んできたことを映像にとり、また低学年は作品を展示し、互いの学習の成果を確認し合いました。

児童同士の関わり合いが、密集・密接にならないようにすることが、いかに難しいか悩むことが多かったです。異年齢集団による集会活動も本校の特色の一つです。今年度は、バスや電車を使った遠足ができませんでしたので、兄弟班（1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生）で祖師谷公園に行って交流活動を行いました。上学年の子たちは、下学年の子たちをしっかりとリードし、下学年の子たちは、上学年の子を慕い、楽しそうに遊ぶ姿がありました。

開校記念集会は、例年、体育館に全校児童が集まり、「ぼくらのそしがや」を合唱していました。子どもたちの元気な歌声にいつも感動していましたが、今年度はそれも叶いませんでした。でも、代表委員が少人数教室に集まり、各教室とオンラインでつながりながら全校集会を行いました。代表委員が調べた祖師谷小学校の歴史を説明したり、クイズに出したりして、子どもたちは初めての試みが成功したことに大きな達成感を感じていました。

できなかったこともたくさんありましたが、子どもたちの笑顔が様々な場面で見ることができた一年でした。



思いやりとあこがれ

塚戸小学校 校長 石田 孝士

今年度は4月、5月と新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休校でスタートしました。昨年度から「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つのキーワードをもつ特別活動を学校運営の柱の一つとしてきました。学校行事も感染症対策をしっかりと行いながら取り組んでまいりました。

その一つである『運動発表会』を行いました。表現(ダンス)とかけっこ(短距離走)を中心に午前中のみで行いました。最後の運動会となる6年生は、このような時だからこそ我々しかできない活動をしように考え、『われしか活動』と銘打って盛り上げる活動をしました。6年生みんな話合い、学校内を輪飾りで飾り付けたり、特大プログラムを作ったり、入退場門を自分たちで作成したり、その活動は多岐にわたっていました。全校のみんなで声援を送ることができないので、拍手代わりに手形を押した旗を校庭に飾り一体感が出るようにしました。当日は、各教室に生中継をして教室で応援を送りました。塚戸小学校の子どもたちと教職員が協力して温かな運動発表会になりました。



本年度、本校は創立145周年を迎えました。今年から、児童会の組織を変え拡大代表委員会(つかどん会議)を新設し、各学級の代表委員と各委員会の委員長も参加して学校生活上の課題解決のために話し合うようにしました。「145周年記念児童集会を成功させよう」という議題で話し合いました。各委員会が趣向を凝らした活動を行いました。

また、145周年週間を設定して、栽培委員会は桜の記念植樹を行い、集会委員会は歴代校長ビンゴゲームを計画し、美

化委員会は普段やらないところの清掃方法の動画を制作して145周年を迎えた塚戸小学校をみんなできれいにしようとしたりするなど子どもたちのアイデア満載の取り組みが行われました。

コロナ禍で川場移動教室、日光林間学園、遠足を中止せざるを得ませんでした。大切な学校行事ですので何かできないかと考え、新たに交流遠足を新設しました。高学年と低学年の2つの学年で縦割り班(つかどんタイム班)のメンバーで都立祖師谷公園と芦花公園に分かれて行きました。高学年は、低学年が喜ぶような遊びは何かを一生懸命に考え、ルールを分かりやすく説明するために様々な工夫をしました。

今年は、いろいろな制限が多く学校の行事も変更を余儀なくされてしまいましたが、子どもたちはその制限を生かした活動はできないだろうかアイデアを出し合って学校生活を充実させようとなりました。その中心となった6年生は下級生のことを何よりも思いやりをもって接していました。そのような6年生のことを下級生は大好きです。そして、あこがれています。

本校では、「思いやり」と「あこがれ」の気持ちを育てようとしてきました。

コロナ禍の中でも特別活動を通して、塚戸小学校の子どもたちにしっかりと「思いやり」と「あこがれ」の気持ちが育ちました。

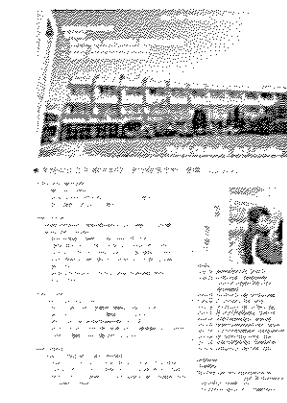


コロナ禍における千歳中学校の1年 ～力を合わせて～

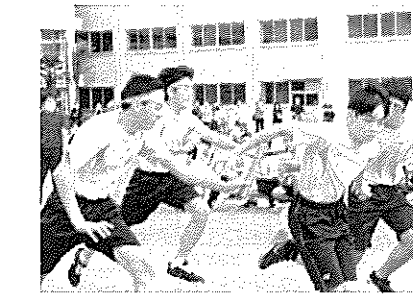
千歳中学校 校長 山本 武

校長として令和2年4月に着任しましたが、4月7日に発令された第1回目の「新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言」の影響もあり、生徒たちを学校に迎え入れることができるようになったのは、6月に入ってからです。それまでの2か月間は、学校が再開した時にどのように学校を運営していくのかを考えるとともに、学校から学習や生活に関する情報発信を心がけてきました。

6月に学校をスタートさせた際には、学校の方針を「現状の理解に基づき、できる最大限の工夫をし、指導を充実する」と定め、「今後の感染拡大に備え、できるものをできる時に、できる限り行う」とし、教員間で共通認識をもちながら、特に各教科の学習活動を優先させて行うよう取り組みました。また、

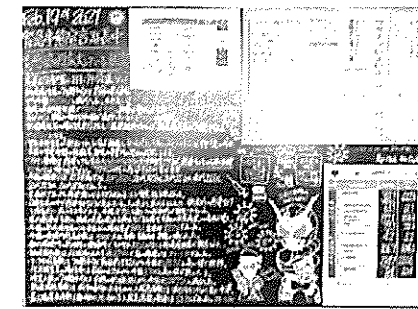


保護者や生徒の不安解消のために、6月の学校再開後の直後に保護者会を実施したり、6月と7月に生徒や保護者との面談期間を設定したり、9月当初にハートフルウィークを行ったりする等、教員と生徒・保護者の



の関係性を高めるよう取り組んできました。さらに、コロナ禍の影響で学校公開等が全くできなくなり、学校や生徒の様子をお知らせするために、各学年は、毎週学年だよりを発行したり、学校だよりも1か月に2回発行したり、HPの更新の頻度も上げたり、学校からの情報発信を積極的に行いました。2学期からは運動会等の学校行事も行い、学校生活に潤いを与えるよう努めました。

東京都では、毎週木曜日に専門家による新型コロナウイルス感染症に関するモニタリング会議を実施していましたので、生徒に新型コロナウイルスの感染に関する現状を知ってもらいたいと考え、校長室の前にモニタリング会議の概要や日々の感染状況を記したブラックボードを掲示しました。



12月以降は、新型コロナウイルスの感染者数が増加傾向にあり、いわゆる第3波の真ただ中の状況となりました。第1波・第2波をしのご

感染者の激増のため、学校でも細心の注意を払う必要が生じました。1月7日には、第2回目の緊急事態宣言が発令され「人の流れを止める」ことが重要視されました。また、3年生の受験期とも重なり、生徒を新型コロナウイルス感染症の「り患者・濃厚接触者」にしないための手だてを考えました。今年度の高校受験は、例えば都立高入試においても、濃厚接触者になった場合、追試験や追追試験にまわる制度が設けられました。しかし、追試験や追追試験で合格できる人数は多くはなく、一次試験日に全員を受検できるようにすることが本校の命題と捉え、世田谷区教育委員からもGIGAスクール構想に伴



う人1台タブレットの配布もあったことから、3年生の土曜授業日はリモートで行うこととしました。結果として、都立高校受検日には、大き

な混乱もなく、本校の都立高受検希望者の全員が受検することができました。

令和3年度においても学校は、新型コロナウイルス感染症への対応が不可欠です。ですが、この1年間で積み重ねてきた対策は、今後の学校運営に役立つ知恵となっています。教員だけでなく保護者や地域の皆様、そして生徒全員で力を合わせてきた成果だとも考えています。今後も「力を合わせて」という言葉を、共有すべき言語であるとの認識で、千歳



中学校をよりよい学校にすべく、努めていく所存です。

コロナ禍での教育活動

都立芦花高校 校長 海發 真一

地域の皆様にはいつも温かな御支援を賜り、誠にありがとうございます。

令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月2日からの全国一斉休校、体育祭や文化祭、合唱祭といった学校行事の中止、年明けの緊急事態宣言発出に伴う分散登校の再実施や部活動の中止など、教育活動の大きな変更を余儀なくされました。感染症の流行は過去にも経験していますが、これほど大きな影響に見舞われるのは初めてのことです。感染症の拡大防止を図るとともに、生徒の不安な気持ちに寄り添いながら、学習の遅れが生じないように、種々のことに取り組んだ一年でした。

- 芦花高校は東京都教育委員会から「進学指導研究校」に指定され、進学指導体制の充実や生徒の学力向上に努めていますが、今年度、新たに東京都中部学校経営支援センターから「特別指定校」の指定を受けました。この指定を活用し、3年生を対象とした予備校講師による学力向上講習を夏休みに行いました。この講習は生徒の学力向上を図るとともに、芦花高校の先生の進学指導力や授業力を高めるために役立てました。
 - 年間の授業時数を確保するため、夏休みと冬休みを短縮して授業を行いました。第1学期終業式は立秋の8月7日で第2学期は8月24日スタート、第3学期始業式は1月4日とし、休校期間の授業を取り戻す取組としました。
 - 学校行事がのきなみ中止となり生徒も寂しい思いをしましたので、11月5日に学年別スポーツ大会を行いました。この日のために皆で協力して朝練習を行うなど、クラスの絆を深めることができてよかったと思います。
 - 休校期間や分散登校時のオンライン学習を充実させるため、生徒全員に Teams の ID とパスワードを配布しました。課題の配信や提出をオンラインで行うシステムを整え、ライブ配信した授業を生徒が自宅で視聴する試みも行っています。
 - 2月には、先生方から生徒へのメッセージ集を作成しました。コロナ禍の中、心の健康を保持するとともに、高校卒業後の進路希望実現に向けて今やるべき勉強にしっかり取り組むことの大切さを伝えました。
- ※ 芦花高校の教育活動の様子は本校ホームページに掲載していますので、御覧いただければ幸甚です。

「コロナ禍の児童館」

祖師谷児童館 館長 石山 和広

2020年は、世田谷区児童館にとっても新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響を受け、4月から6月は、閉館を余儀なくされてしまいました。その後は、マスク着用のうえ、各部屋の人数制限・換気・消毒・入館時の検温などの対策を講じながら、館の運営を行っています。祖師谷児童館が地域のイベントなどで機動力を発揮できず、一端を担うことのできない現状は、とてもはがゆい気持ちです。

早くこのコロナ禍から脱却し、地域の方々と笑顔でイベントなどが行えることを心から待ち望んでいます。



コロナ禍における青少年地区委員会の活動

青少年健全育成支援相談員 金指 宜和

今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大により、地域における青少年の活動がSTOPしてしまいました。祖師谷青少年地区委員会でも、バスハイクや夏まつりなど子どもたちが楽しみにしている行事のすべてが、残念ながら中止となってしまいました。

地域の青少年地区委員会の活動は、人との交流、ふれあいが中心となっているため、このウィルスは人とつながる営みを奪ってしまったようにも思えます。

11月に行われた祖師谷地区委員会の不審者対策の看板づくりに参加させていただきました。子どもたちが安心して地域で過ごせるようにという思いから始まった活動ですが、コロナ禍の中、多くの委員の皆さんが参加していました。熱心な作業ぶりにも感心しましたが、委員さん同士が和気あいあいと作業をしていたことも印象的でした。今年度はじめて青少年地区委員になられた方とベテランの委員さんが旧知の仲のように、親しそうに話をされていました。こうした雰囲気は以前から感じていたこの祖師谷地区の良さでもあると思います。こんな状況だからこそ、人とのつながりを大切にしていきたいという思いでもあるかもしれません。

新型コロナウイルス感染症の流行により、子どもたちの取り巻く環境は一変し、その課題もより多様化・複合化・深刻化しています。虐待やいじめの増加も懸念され、SNSを悪用した犯罪に巻き込まれるケース、ネットやゲーム依存、子どもの貧困等、深刻さが増しています。このような状況において、青少年地区委員会の活動の果たす役割は非常に大きいものであると考えています。活動がしにくい状況がまだまだ続くとは思われますが、青少年祖師谷地区委員会の皆様の発展と活躍を今後も大いに期待していきたいと思えます。

当地区委員会研修会

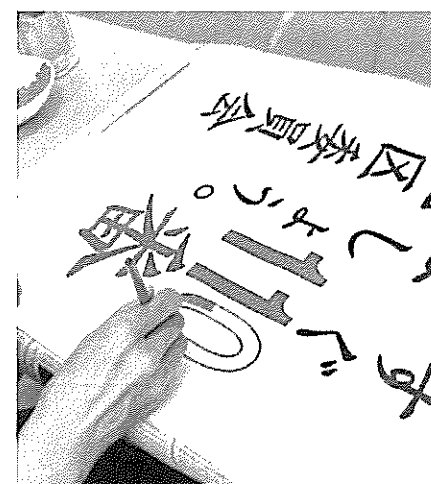
令和3年3月29日（月）

主催 青少年祖師谷地区委員会

コロナ禍や、その後の地区委員会としての活動について、意見交換という形で、短時間での研修会とします。（予定）

不審者対策の看板作成・設置

当地区委員会では、子どもたちの安全・安心を願い、大きな目玉が特徴の不審者対策看板を手作りし、祖師谷・千歳台地域に設置しています。



令和2年11月17日（火）

